

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601812	事業の開始年月日	H15年4月1日
		指定年月日	H15年4月1日
法人名	社会福祉法人 久寿会		
事業所名	グループホーム中の郷		
所在地	(252-0135) 神奈川県相模原市緑区大島1601-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	H28年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活を穏やかに安心して過ごして頂ける様、雰囲気作りや一人一人に寄り添い想いをくみ取り共有できるよう援助しております。さまざまな活動を通し気分転換を図って頂き、また、地域の方々に混じり活動されたりホーム内だけでなく開放的な明るいホームを目指しております。特に毎月各ユニット毎の活動は多彩であり一人ひとりの笑顔を大切に職員一同取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年10月27日	評価機関 評価決定日	平成28年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所はJR横浜線・相模線と京王線の橋本駅南口からバスで20分、バス停から徒歩5分ほどの所にある。広い敷地の中に同一法人の特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスと併設のグループホームが建っている。周りには畑が広がり、敷地内の植樹も多い。隣接して、協力医療機関の病院がある。近くには小学校、まちづくりセンター、消防分署、JA支店などがある。事業所の建物は鉄筋コンクリートの2階建てで、屋上には野菜や花を育てる花壇があり野菜を収穫している。見晴らしもよく四季折々に丹沢の山々の風景や相模川の花火大会を楽しめる。
【理念に沿った介護支援】 理念「安心して暮らしつづけられる家作り」を基に、利用者が自由に笑顔でその人らしく生活ができ、利用者の可能性を引き出す介護支援を実践している。利用者は毎日の買い物や散歩のほか、車椅子の利用者も含め、各ユニットごとに車を使用して公園や藍染め工房、外食などに出かけている。
【充実した食生活の支援】 各ユニットごとに献立を考え、利用者職員が毎日食材の買い出しをしている。対面キッチンのため、調理の様子や料理の匂いを感じながら食事が楽しめる。出前や外食も取り入れて食の充実を図っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム中の郷
ユニット名	ゆり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、目を通すケアプラン表の先頭に入っており、いつでも確認出来るようになっている。また、会議などで職員同士話し合い理念の共有に努めている。	理念は、職員が必ず見る記録ファイルの表紙に掲示してある。年間6回発行の広報「陽だまり」にも掲載している。職員は理念を理解し、日々の介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時などにあいさつを交わしたり、いきいきサロンなどで親睦を深め、納涼祭、餅つきなど地域の人達が訪れ交流している。	中の郷自治会に加入している。自治会のどんど焼きに利用者と職員が出かけている。法人の納涼祭や事業所の餅つきに地域の方が参加し交流している。習字ボランティアが毎月訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて理解して頂けるように努めている。地域の方々に悩み事や相談事など支援出来るような体制作りを行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して情報の共有しサービスの向上に努めている。	運営推進会議には自治会長、民生委員、家族代表、地域包括支援センターの職員などが参加し、2か月に1度開催している。会議では活動報告、情報交換をして地域の情報も得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域高齢者支援センターの職員と連絡を取りながら協力関係を築けるように努めている。	市内の「グループホーム連絡会」に高齢支援課の職員が2人参加していて、面識がある。地域包括支援センターの職員は運営推進会議のメンバーで日頃から協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員が各ユニットに1人おり職員一人一人の行動に注意を払っている。また、毎月職員がケア宣言を行う事で意識向上に努め身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	緊急やむを得ない場合以外には身体拘束をしない事を明記し、取り組んでいる。現在「スピーチロック」について研修をし目標を作って取り組んでおり、改善された事例がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の中で勉強会を開き、虐待について学びスピーチロックを行わないケアに取り組んでおり、職員も日頃から注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会があり、職員は理解し支援出来る体制になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居時や退去時の時に説明を行い利用者や家族の不安や疑問点など納得できるまで十分に話し合い理解出来るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されておりいつでも意見や要望が聞けるようになっている。また、職員は面会時に家族とコミュニケーションを取り意見や要望が言いやすい環境作りに努めており反映出来るように努めている。	年2回家族会があり、懇談している。訪問時にも随時、話を聞いている。家族から、法人の敷地内を散策するときの休憩コーナーに、屋根があると良いとの意見が出て検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は会議などで職員の意見や提案を聞く機会がある。また、個別でも意見や提案を聞いて下さり反映されている。	ユニット会議、全体会議、法人の会議などがあり、職員の意見が出されている。職員の意見でタブレットでの記録を開始し、記録時間の短縮や即時の確認ができるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや業務管理シートを作成し職員一人一人の考えややりたい事が明確になり向上心に繋がっている。また、管理者との面談もあり職員環境も整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて外部の研修を受けたり法人内で研修や会議で勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的にグループホーム部会があり、市内のグループホームと事例検討会を通し知識・技術の向上を図り意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事や不安な事を家族や本人に聞きながら安心して生活できるように環境を整え職員は常に利用者の話に耳を傾けながら信頼関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの不安や要望、困っている事に耳を傾け、職員は大切な家族をお預かりするという事をしっかりと理解し受け止め家族との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、何を必要としているのか見極め安心した生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の味付けなどを教わったり一緒に家事を行ったりと声掛けし何事も一緒に行えるように心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の時間を大切にしながら支えていく環境作りに努め家族参加の行事を開催している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真を居室に置いたり故郷の話を一緒に話したりし本人の馴染みの人や場所が途切れない様に職員は支援に努めている。	入所前から通っている美容院やお墓参りに家族と出かけている方がいる。年賀状および手紙の受け取りや返信、電話の取次ぎをして、これまでの関係が継続されるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士コミュニケーションが取れるようにフロアに共同スペースがあり利用者は思い思い過ごされている。また職員はレクリエーションやお手伝いを取り入れながら支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養棟に移られた利用者にも面会に行ったり行事などで会う機会も多く利用者や家族との繋がりを大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の想いを大切にし、職員は毎日の生活の中で希望や意向などを聞き実現出来るように努め家族に協力を得ながら検討している。	家族から聞いたり、利用者との日常の会話の中で思いや意向を把握している。把握が困難な場合には、日々の行動や表情から読み取り、本人の立場で考えて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時などに本人や家族に生活歴や暮らし方などを聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はミーティングなど日々の話し合いで情報を共有し、利用者一人ひとりの現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや担当者会議、ケース記録など参考に利用者の現状について話し合い、また面会時には家族の意向も聞きながらケアのあり方を職員は共有し介護計画を作成している。	モニタリングは毎月行っている。家族の意向を聞き、ユニット会議や担当者会議で意見を出し合い、医師からの情報も共有して、利用者の現状に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳を活用し、職員は情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせて柔軟な対応が出来る様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、地域のいきいきサロンへの参加など楽しみながら暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の月2回の往診や家族希望のかかりつけ医の受診など適切な医療が受けられるように支援している。	入所前からのかかりつけ医に、家族対応で受診している方もいる。協力医療機関から月2回往診がある。法人内の看護師が週1回訪問して健康管理をしている。歯科医は週1回往診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、相談や情報の交換など行ない連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とは情報の共有を図り、安心して治療が出来、早期での退院が出来るように信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族、施設側とで話し合いの場を持ち、十分説明をしながら方針を共有し書面の交換を行ない支援を行っている。また看取り委員会が設置されており看取りの勉強会を行うなどの取り組みがなされている。	入所時に「医療連携・看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。「看取り介護指針」は入所時に説明後、終末期に再度説明し同意を得ている。協力医療機関とは24時間連絡できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習会があり、知識や技術の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練が行われている。また消防のマニュアルもあり職員は避難方法や手順も身に付けている。	3ユニット合同で、年3回避難訓練、通報訓練、消火訓練を行っている。通報後3分程で消防車が来れるところに市の消防署がある。利用者27人分の備蓄を、法人の栄養士が管理している。	大規模地震などの災害も想定し、職員の数を含めた備蓄への取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内で研修があり勉強している。また、日々の生活の中で職員同士注意しながら徹底している。	職員は研修を重ね、利用者の尊厳と権利を守る基本を学んでいる。誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない配慮をしている。個人情報を含む書類は鍵のかかる引き出しで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で本人の思いや希望を聞いたりし、本人の意思や自己決定出来る声掛けを心掛けており意思表示や希望を尊重できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にし、希望に沿った支援を行っている。利用者のペースを大切にし、希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望で近所の美容院に出掛けたりと希望に沿った支援を行っている。毎日の中では一緒に洋服を選んだり髪をセットしたり行事などはお化粧をしたりとおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援	食べたい物の要望を聞いたり、食事作りや後片付けを行ったりし	職員が利用者の希望を取り入れて献立を考え 食材は毎	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	している。月1回外食に出掛けたり昼食などはパン屋のパンを買いに行ったりと楽しみのある食事作りを行なっている。	日、利用者と職員が買い出しに行き調理している。職員は利用者と同じテーブルで介助をしながら同じものを食べている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べるものは野菜中心にバランス良く提供出来るように考えている。また水分量も常に確認し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は各自で行っている。一人で行えない方は支援にて行っており必要に応じて巡回歯科にて口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握や自分で意思表示出来ない利用者には利用者のサインを逃さず、さりげなく声掛けをし誘導している。	排泄チェック表を記入して利用者のパターンを把握している。利用者の様子やパターンを参考に声を掛け、誘導して、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が豊富な食材を献立に取り入れている。また、起床時の飲水や乳製品など個々に応じた取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を活用し声掛けを行っている。希望があれば毎日でも入浴出来るように支援している。	浴槽は大きめで職員が付き添い個浴で入浴している。週に2回は入浴するように計画しているが、希望や必要に応じて入浴やシャワー浴に変更することもある。菖蒲やゆず湯、入浴剤を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせてお昼寝を取り入れたり、就寝前の環境を整えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり処方箋がユニット内の個別記録に置いてあり、職員は副作用など理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外食やドライブに出掛けたり、希望によって買い物へ出かけたりしている。また、レクリエーションを行ったり散歩に出掛けたりと気分転換を図っている。外食やドライブに出掛けたり、希望によって買い物へ出かけたりしている。また、レクリエーションを行ったり散歩に出掛けたりと気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常的に行っている。みんなで出かけた場所など話し合い家族の協力を得ながら藍染工房や陶芸等に出掛け作品を作成したりと楽しまれている。	法人内の敷地が広く散策できる。天気の良い日は近くを散歩している。外出の企画をして、1ユニット全員が、車いす対応の車で出かけている。外食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者はお金を所持しており、買い物など支援している。お金の管理が出来ない利用者はこちらで預かったり立て替えし買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を掛けに行ったり、手紙のやり取りを行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や鉢植えを行なったり、冬にはコタツを出したりと季節感を大切にしている。また手作りの作品を多く取り入れ居心地よい環境を作っている。	居間は対面キッチンで広く、採光も十分あり、観葉植物が置かれている。壁には手作りのカレンダーや習字用の額が飾られ、温かみがある。毎日、外部の清掃員が入り全体的に綺麗に維持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置き好きな場所で好きなように過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみのある家具を取り入れたりし家族と相談しながら居心地よい居室作りを心かけている。	各居室には洗面台がある。利用者は馴染みの写真や家具、仏壇などを持ち込み居心地よく過ごせる居室になっている。利用者の希望でマットレスに布団を敷いて寝ている方もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケース記録や連絡帳、ヒヤリハットを活用し安全で自立した生活が送れるよう支援している。		

事業所名	グループホーム 中の郷
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常に活用しているファイルに理念は掲示してある。職員間での共有をはかり、実践につなげていけるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外出、買い物で地域に出掛けている。また、ボランティアによる毎月の習字、定期的なレク等を行う事でも交流を深めている。新年の餅つき大会は、恒例になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的な交流や夏の納涼祭では地域の方に実践現場間近で見学頂き、運営推進会議などでは、ユニット毎の活動報告等の日常活動報告を行う事で理解して頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の活動報告し意見を頂いたり、情報を頂いたり、身近な意見として参考にさせて頂き、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との協力関係を築けるよう日頃から連絡をとっている。また、市からの回覧が回ってきたり、市主催の勉強会・研修会にも積極的に参加するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解を深め、再認識の為の施設内研修を年に数回行っている。身体拘束委員会が主体になり、月ごとに各ユニットや個人の拘束しないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	合同会議で勉強会で理解を深め、職員の知識や意識の向上により防止に繋げていけるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修や勉強会で学び全職員が理解できるように努めている。ご家族様からの相談には、管理者が窓口となり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退所の時は利用者様やご家族様に説明を行い、十分に理解し安心して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会や家族会等で意見を伺える機会を設け運営に反映している。また、プラン説明時にも要望を聞かせて頂き、利用者様には日頃の会話で聞けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議やユニット内で職員の意見や提案を話し合う機会を設け、会議で検討事例として話し合う事で、反映していける。結果を会議等で職員に報告し、相互理解に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前期・後期と目標管理シートや業務管理シートを作成し、半期に1度の上司と面談を行っている。目標を持つことで、向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ法人内外の研修への参加の機会を設けている。また、毎月合同会議で、勉強会が行われている。働きながらのスキルアップも図られ、資格補助制度も設けられた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的にグループホーム部会があり、市内の他施設との事例を持ち合い検討し技術や知識の向上に努めている。また、希望者には、他施設への見学や実習も実施されている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の理解者として受け入れて頂けるように常に耳を傾け思いや本意をくみ取り、ご利用者様との信頼関係を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な気持ちに耳を傾け、速やかな対応を心掛け、協力しあえる関係づくりが築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談等において、ご本人や家族が望まれる事、その時に必要な事を見極め、状況に適した対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物から食事作り食器洗い、洗濯干しからたたみ物、ゴミ捨て等日常生活での各場面を利用者とともに行う事で関係性を築いていけるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加行事の実施や面会、月1度の手紙等で近況を伝える事で双方の絆と想いを大切にし、ご利用者様を家族と職員がともに支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の大切にしている想いを受け止め、希望に添った外出等ができるように心掛けている。入居時には、なじみのものを持参していただき落ち着ける空間を作れるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々にあった関わりを大切にした支援を行っている。利用者同士の人間関係を職員も把握できているので、状況に応じて支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	久寿会の特養に移られた利用者は行事等での機会がある度に関わりをもつ事がある。退所された方などは気軽に訪問して頂けるように関係の維持に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様との会話や訴えから希望や意向の把握に努め、日常の様々な場面で自己決定の機会を大切にしながら、想いや希望に応えられる様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境をご本人様やご家族様から伺い、個人ファイルを作成し、職員の共有理解と把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化ある為 職員間の申し送りや情報交換、観察、記録で全職員が把握できるように務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直し時や状態変化のある時はモニタリングやアセスメントを行い、ケアプランを作成している。状況により医師の意見も組み込まれている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の情報や気づきに関しては連絡帳、毎日の申し送り、ケース記録に残し職員間で情報を共有しプラン検討時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況やニーズに応じ、その時々で柔軟に対応出来るように努め、可能である事も伝えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、買い物、外食、地域ボランティアとの関わりで楽しみや活気がえられ、個々の暮らしが楽しめるように安全に配慮し、支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望を優先とし、家族対応・施設対応の選択あり、適切な医療を受診出来るようにしている。施設対応では、月2回の提携病院の往診がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護が実施されており、看護師と情報を共有し、利用者の日常で気になる事などを相談し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接する病院との連携やそれぞれのかかりつけ医への関係作りに努め、安心して治療を受けられる体勢の確保と早期の入退院を目指して医療関係者との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様・施設側とで、2者または3者での話し合いを行い、文書の説明交換により方針を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命急救の講習や訓練、合同会議での勉強会なども行われ、知識や技術の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、施設での消防のマニュアルもあり、避難方法を熟知出来るように繰り返し訓練を行っている。また、災害時には地域の方の受け入れも可能な体勢を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束委員会により、虐待の勉強会の中で、人格の尊厳や尊重の重要性を学ぶ機会を設けている。個人情報取り扱い等は常に意識し、全職員で徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で個人個人に合わせて、希望を言えたり、自己決定の機会を多くを持つ事を働きかけ、その人らしい生活を送って頂ける支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を大切にし希望にそっての支援を心掛けている。日々の利用者の状態を察する事で、希望に添える過ごし方が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望や好み等により、楽しみながらおしゃれが出来るように支援し、身だしなみにも配慮した支援を心掛けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と毎日の食材の買い物、料理、味見、味付け、盛り付け、後片付けなど楽しみながら行う様に努めている。また、ベランダでの野菜作りを楽しむ事で、食への意欲に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個別に毎食記録されている。毎食職員も共に食べており個々の嗜好や状態も把握できている。献立も栄養師のアドバイスが受けられる体制作りが出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は各自で行われている。一人で行えない方は毎食後に支援行っている。毎週水曜日に巡回歯科あり治療や定期的に口腔ケア行われ清潔保持保たれている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録や状態の情報共有により、個々の排泄パターンの把握に努め自立に向けた支援が出来るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について理解をし、乳製品や食物繊維を多く取り入れた献立も考えられており、起床時の飲水、毎日の体操や散歩も予防につながるとの意識を持ち取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望されるタイミングで入浴出来ている。2～3日に1回程の割合だが、希望される方は毎日でも入れる環境にある。逆に入浴を拒む方は無理せず、日にちを変更している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室には使い慣れた物や大切にされていた物が置かれており、安心して過ごし、安眠につなげられる様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋が挟まれており作用や副作用の共通理解を図っている。薬の変更や状態の変化などは連絡ノートとケース記録、申し送りでの情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で好まれている事など職員間で随時情報を共有し、日々の生活に活かしている。また得意な事を役割として行っていただき、張り合いにも繋がっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には個別対応で対応し、また希望をひきだし家族と協力しながら外出を楽しむ支援を行っている。外泊や外出も家族協力にて行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方はお金を所持し買い物などに出かける支援も行える体勢を整えている。管理の難しい方はご家族と連絡を取り対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を出す等の要望がある時は都度対応の支援行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な居心地の良い空間作りを大切にしている。また、季節に合った物を飾ったり、ベランダにガーデニングをして季節の花々や野菜作りを楽しんで頂けるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士で談話したりテレビを見て楽しめたり、一人用や二人用のソファも配置されて安らげる空間作りを心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き家で使っていた家具や物を置いて工夫している。使い慣れた家具を持ってきて頂き、あんげんに配慮した配置にも心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が出来る限り自立し行って頂ける様に、安全に配慮している。ご利用様が安全で自由に行動できる環境作りに取り組んでいる。		

事業所名	グループホーム 中の郷
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寮母室の壁に見えるように貼っており、職員は理念の共有を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行っている納涼祭や餅つき大会、どんと焼きに参加したり、日々の買い物や散歩などに行ったりと交流を行っている。また月1回あるいきいきサロンなどにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進者会議を行い会議を通じて理解を頂けるように行っている。また、納涼祭や餅つき会等で相談される事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議や話し合いを通じて意見などを参考にし、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との連携を維持し、協力を得られるように取り組んでいる。また、勉強会や研修会に積極的に参加するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が組織されており、職員は月ごとに個人目標を掲げ取り組んでいる。また、ユニットごとにも目標を掲げ、職員同士で心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、専門知識の向上や職員の意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会で学び職員は理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入、退居時の窓口を管理者とし、利用者や家族に説明を行い、安心して頂ける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置を行っており、また家族懇談会やイベント時、面会時などに意見を聞けるようにし、ユニット会議などで話し合いを行い共有し、運営に反映できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の合同会議やユニット会議で話し合いの場を設け、また日常でも意見や提案を話し合う場を設け、反映しているように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤者は年に2回の目標管理シートや業務管理シートを作成し上司との面談を行い、非常勤職員も定期的に面談を行うことで向上を目指せるように整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加や毎月の合同会議での勉強会などを行っており、職員のスキルアップの向上を行っている。また、資格取得サポートや資格補助制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に相模原市のグループホーム部会があり、他施設との事例検討や勉強会の実施を行ったりとケア技術や知識の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の状況や環境の変化を見極め、その方に寄り添ったサービスを行うことで、信頼関係を築き、安心して暮らせるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時等に困っていることや不安な事などの意見等を聞けるような機会を設け、状況に応じたサービスを心掛け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを汲み取り、その時の状況にあった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での色々な生活の場面に共に共有する事で、対等な関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設時に利用者の近況報告や今後の支援方法などを家族様と話し合い、意見を取り入れた支援を行うことで、家族と職員と一緒に支えていく関係を築いていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、外出や外泊等を行ったり、面会がしやすいよう努めている。なじみの物を持ってきて頂き、落ち着ける居住空間を作れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出や日々の生活の場面で共に出来ること（家事やレクレーション等）で関わりを出来るに行い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養棟やユニット特養に移動された方は、行事や面会にいったりと、繋がりもあり支援を継続しやすいような関係を維持できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での本人の思いや希望に応じられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に生活履歴等の情報を記入して頂いている。また、日々の生活の会話の中から把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化がある為、ケース記録や会議の場において、職員同士での情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や担当者会議、連絡ノート等で個々のケアの要点を共有し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の情報などケース記録や連絡ノートを活用し、職員間で情報の共有をしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や必要に応じ、ニーズの変更を行ったりと柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の生活の場面で散歩や買い物、ボランティア等の関わりの中で、安心して豊かな暮らしを楽しむことができるように支援し努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設での月2回の往診、連携している病院への受診など、本人及び家族等の希望を大切にし、適切に医療を受けられるよう支援おこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護にて情報の共有により看護職員と連携を図り、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療でき、早期退院を目指して医療関係者との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階より利用者、家族、施設側とで、話し合いの場を持ち、文章の説明や施設方針を共有し取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防所の救命講習への参加、勉強会等にて知識・技術の向上を図るとともに、ユニット内にもマニュアルがあり職員同士での共有を行い、取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練の実施、火災発生時のマニュアルの熟知、災害委員会による勉強会の実施等により全職員に徹底を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重し、誇りやプライバシーの尊重を常に職員は意識し、取り組んでいる。また、身体拘束委員による勉強会により心掛けるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の会話の中から思いを汲み取ったり、意思や自己決定できるように働きかけ、その人らしい生活が出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気持ち、その日の気候等を考慮し、本人の要望を聞き、希望にそった支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や行儀の際に化粧をしたり、その人の要望にあった支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を行ったり、その後も日々の食事での観察、いろいろな食事を提供したりし、会話からなどの情報により食事を楽しんで頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の摂取量や状態を観察し、その利用者の食事量や水分量を記録に残し、一人一人にあった支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の声掛けや支援の必要な利用者には支援を行い、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立にむけた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に便秘予防の食材を使用したり、水分を多く摂って頂くようにしたりし取り組んでいる。また、毎日の体操を行って頂き体調面での支援も取り組むようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	朝や昼と時間問わず、その方の要望に応じた入浴の支援を行っている。また、季節に応じて入浴剤や行事によって柚子や菖蒲湯を楽しんで頂くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や状態、気温に合わせて快適に安心して眠って頂けるように、温度調整を行ったりの環境整備に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋が挟まれており、職員は服薬内容の共有に努め、その人の状態に合わせて随時体調の変化等の記録の徹底に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の手伝いやレクリエーション、利用者が好きな事や外食や外出などの場で、気分転換を図れるようにし楽しんで頂けるように取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出や買い物を行い、また、日々の会話から本人の希望を把握し出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方へは、お金を所持し、希望により買い物に出かけたりと対応行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には都度、対応おこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、職員同士での話し合いを行い、レイアウト担当を決め、季節感を出すように行ない利用者と一緒に作っている。。また、多くの植物を育て、季節感を感じられるように取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で話せるコタツがあったり、窓際にテレビを見て過ごせるソファを設置したり、外にはベンチを設置している。また、いつでも自室にて過ごして頂けるように取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が以前から使用していた馴染みの家具や物を持ってきて頂き、本人が快適に過ごして頂けるように取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の日々の状態の把握に努め、職員同士での共有を図り、その人が出来ることを活かした支援を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム中の郷

作成日 平成29年1月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	大規模地震・災害時 用備蓄に関し、利用者分はあるが職員数を含めた備蓄が必要。	職員数含めた備蓄。 3日分→7日分の備蓄。 備蓄・備品の一覧表作成。	久寿会全体の取組として検討中。 GH独自での備蓄・備品一覧表含むBCPの作成。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。